

# 安来市地域公共交通連携計画



平成 26 年 3 月

安 来 市



## 目次

序章 計画の概要.....	2
背景と目的.....	2
計画の位置づけ.....	3
計画期間.....	4
第1章 安来市の公共交通の現状と課題.....	5
1 区域区分.....	5
2 公共交通を取り巻く環境.....	6
(1) 位置・地勢.....	6
(2) 人口減少と高齢化の進行.....	7
(3) 人口密度.....	8
(4) 山間部に点在する高齢者.....	9
(5) 施設の分布.....	10
(6) 観光振興.....	11
3 安来市の公共交通.....	12
(1) 鉄道.....	12
(2) イエローバスとその他の路線バス.....	13
(3) タクシー.....	22
4 市民生活とイエローバス.....	24
(1) 移動ニーズ（移動希望先）.....	24
(2) バス停までの距離.....	25
(3) イエローバスに対する満足度.....	26
(4) 通学利用.....	28
5 安来市における公共交通の課題.....	30
第2章 計画の基本方針.....	32
1 基本理念.....	32
2 基本目標.....	32
3 評価指標とPDCAサイクル.....	34
4 公共交通とまちづくり.....	36
(1) 将来都市構造（安来市都市計画マスタープラン）.....	36
(2) 地域区分.....	37
5 目標達成に向けた取組み方針.....	38
6 目標に対する方針と事業内容.....	44
7 事業一覧.....	45
8 事業スケジュール.....	60
参考資料.....	61

---

## 序章 計画の概要

### 背景と目的

安来市は、中国山地に連なる豊かな緑、平野に広がる田園景観、中海に面した港町と、豊かな自然・文化・歴史の息づくまちとして、古くから発展してきました。その一方、人口減少と高齢化は進行しており、平成2年から平成22年までに約6,700人が減少、高齢化率は13%増加し、平成22年度には人口が41,836人、高齢化率が31%となりました。（国勢調査より）平成25年4月時点では、山間部を中心に高齢化率が40%を超える状況になっています。また国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、今後もさらなる人口減少と高齢化の進行が予測されています。

安来市の公共交通は、鉄道や路線バスが中心でしたが、利用者の減少などに伴う一畑電鉄(株)の撤退を受け、平成12年4月より安来市・広瀬町・伯太町の1市2町で広域生活バスの運行を開始しました。広域生活バスは、市民から「イエローバス」の愛称で親しまれ、平成16年10月の1市2町の合併後も、地域住民の生活を支える移動手段として、また安来・広瀬・伯太間を結ぶ交通の要として、利用者の目線に立った運行サービスの提供に努めてきました。現在も、高齢者や児童・生徒などの生活の足となり、自然豊かな田園や町なかを背景に走っています。

しかしながら、高齢化の進行や社会情勢の変化に伴い、公共交通に対する住民ニーズは変化しており、家の近くへの路線の延長やダイヤの充実など、市民の要望はさらに高まる状況にあります。こうした要望に対して、現在の幹線道路の整備状況や決まった時間に決まった路線を走る形態の定時定路線運行では、きめ細やかな対応は困難な状況になっています。さらに、自家用車に依存した生活スタイルの増加や人口減少によるバス利用者の減少も懸念されており、市民が安心して利用できる生活交通の確保に向けた見直しが必要となってきました。

以上のような状況を踏まえ、安来市では住民アンケート調査等の各種調査を実施し、イエローバスを中心とする今後の公共交通のあり方について、安来市地域公共交通会議において検討を行ってきました。本計画ではその結果を踏まえ、生活を支える公共交通ネットワークの再編を基本的考えに据え、市内の交通体系の再構築、イエローバスの運行やデマンド型（予約型）乗合タクシーなどの新たな移動手段の運行、および鉄道やその他の市域をまたぐ交通との連携等に関して、政策の方針と実現に向けた方策について示しています。

とりわけ、本計画では交通を「まちづくり」の重要な要素として捉え、通院や買い物などを中心とした市民の移動ニーズへの対応や交通空白地域の解消、公共交通を活用した地域経済の活性化、さらには市民や交通事業者などの関係主体が一体となり公共交通を支える仕組みを作ることで、市民がいきいきと安心して生活できる持続可能なまちを実現することを目的としています。

## 計画の位置づけ

本計画では、安来市の総合的な交通体系の再編を基本に、政策の方針、実現に向けた方策についてまとめています。

安来市総合計画（“新生”安来市まちづくり計画）を上位計画としており、その他の都市、環境、保健・福祉・子育てといった関連計画と整合性を図るものとしています。

また、国の指針・施策に基づき、市民や交通事業者等との連携により策定しています。

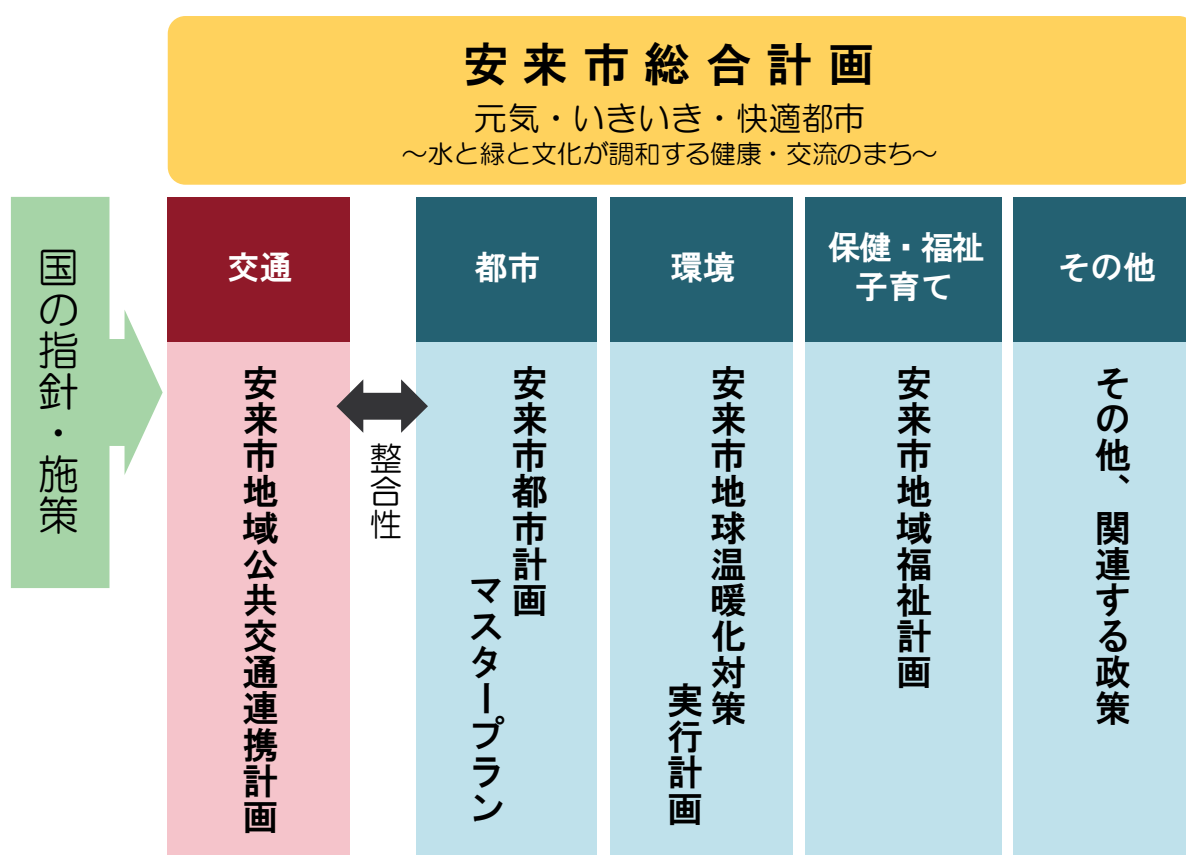


図 1 本計画の位置づけ

表 1 各種計画の本計画と関連する事項

区分	計画	本計画と関連する事業等
都市	安来市都市計画マスタープラン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりの基本理念 (広域交通体系を活かしたまちづくり)</li> <li>・安来市の将来像(土地利用や施設整備の方針)</li> <li>・地域別構想</li> </ul>
環境	安来市地球温暖化対策実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境にやさしい交通環境(公共交通利用の推進)</li> </ul>
子育て・保健・福祉	安来市地域福祉計画	各計画の地域福祉の分野に関する施策展開の方向性
	障がい者基本計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動手段の充実(イエローバスの利便性向上)</li> <li>・公共施設のバリアフリーの推進</li> </ul>
	高齢者福祉計画・介護保険事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防事業</li> <li>・生きがいづくり、社会参加活動</li> <li>・住みよいまちづくり</li> </ul>
	次世代育成支援行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や地域におけるふるさと教育、体験活動の推進</li> <li>・道路、公共施設等におけるバリアフリー化の推進</li> <li>・交通安全教育の推進</li> </ul>

## 計画期間

平成26年度～平成30年度の5年間

(上位計画との関連を踏まえ、中間年次を目途に見直しを行う)

# 第1章 安来市の公共交通の現状と課題

## 1 区域区分

安来市の公共交通の現状と課題は、市域を自治会振興に関する規則に基づく16区域に区分し、これに基づく整理・分析を行っています。

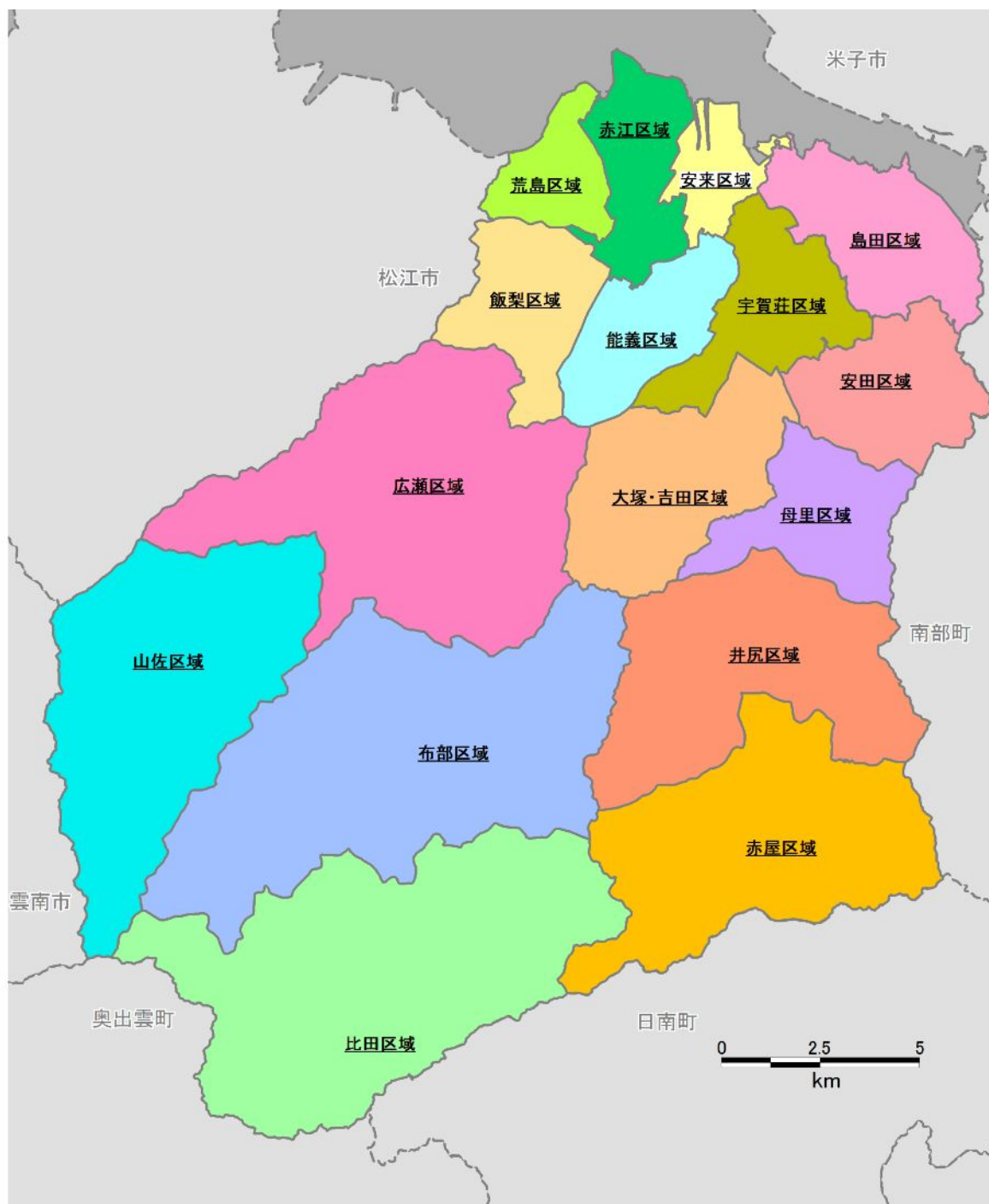


図 2 安来市の区域区分



## 2 公共交通を取り巻く環境

### (1) 位置・地勢

安来市は島根県の東部、鳥取県との県境に位置し、北は中海、東は米子市、南部町、南は奥出雲町、日南町、西は松江市、雲南市と隣接しています。南部は中国山地に連なる豊かな緑が覆い、そこを源流とする飯梨川、伯太川が下流域に広大な三角州平野を形成しています。総面積は420.97km<sup>2</sup>（うち可住地面積は95.62km<sup>2</sup> 約23%）で南北およそ28km、東西22kmの地勢です。

平成16年10月1日に安来市・広瀬町・伯太町の1市2町の合併により「新生安来市」が発足しました。この地域は古くから歴史、文化、生活などにおいて一体性を有し、一つの生活圏として深い関わりを持ってきました。

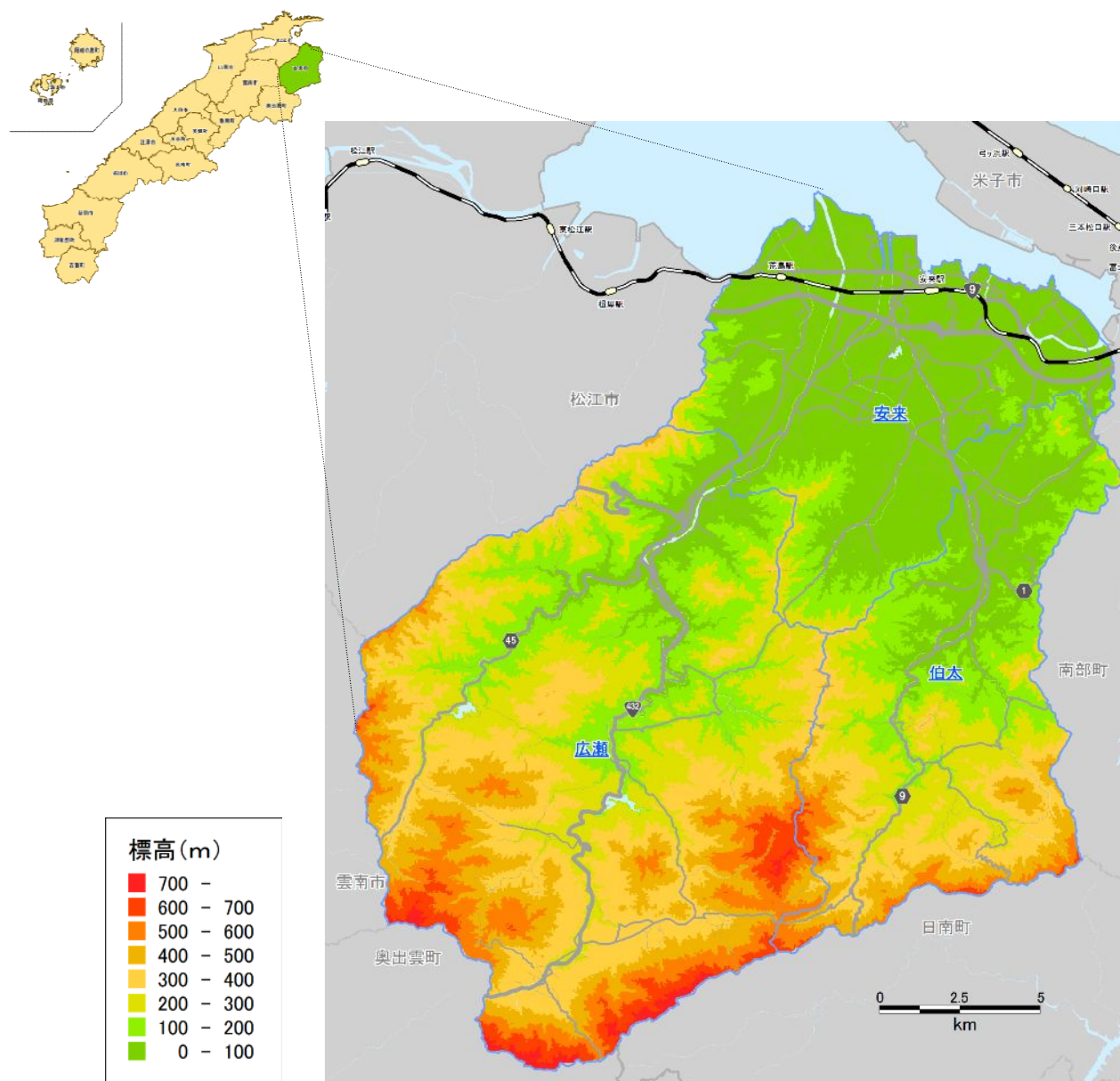


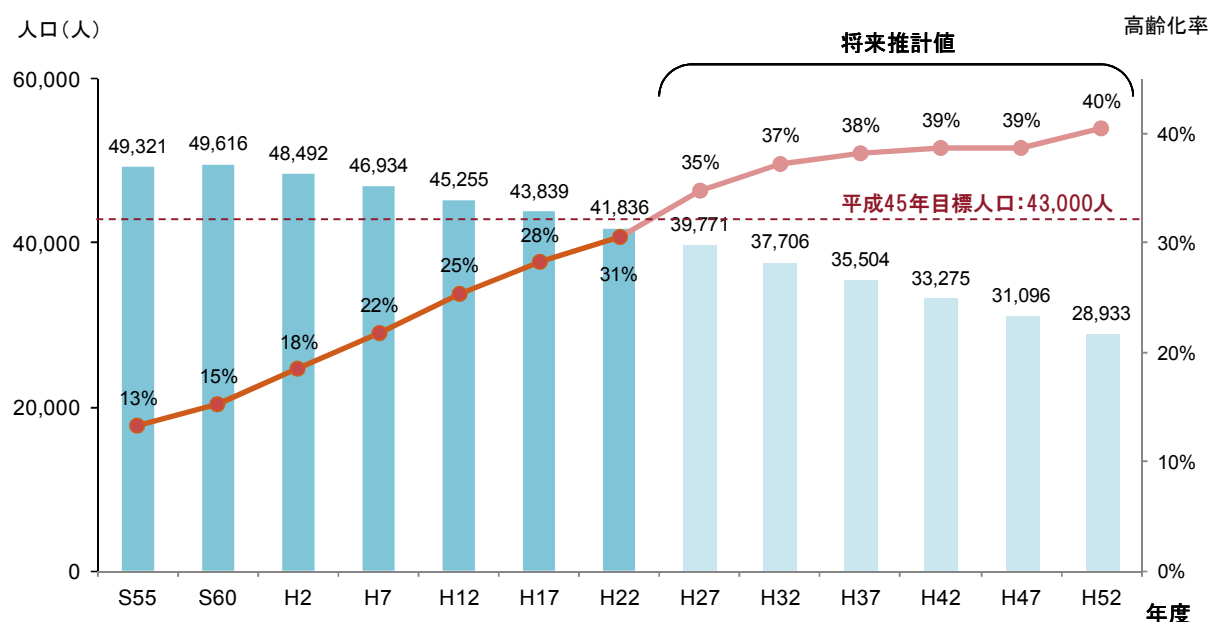
図 3 安来市の位置・地勢



## (2) 人口減少と高齢化の進行

市内の人口は平成2年以降減少に転じており、平成22年までに約6,700人が減少、さらに平成22年から平成52年までに約13,000人減少することが予測されています。また、高齢化率は、市全域で平成22年時点の31%から、平成52年には40%に達することが予測されています。

一方、こうした人口減少が予測されている中、安来市都市計画マスタープランでは、広域交通体系や都市機能の集積を活かしたまちづくりや、日常生活における利便性の高いまちづくりなどの都市政策を進めることで、平成45年の人口を43,000人とする目標を設定しています。

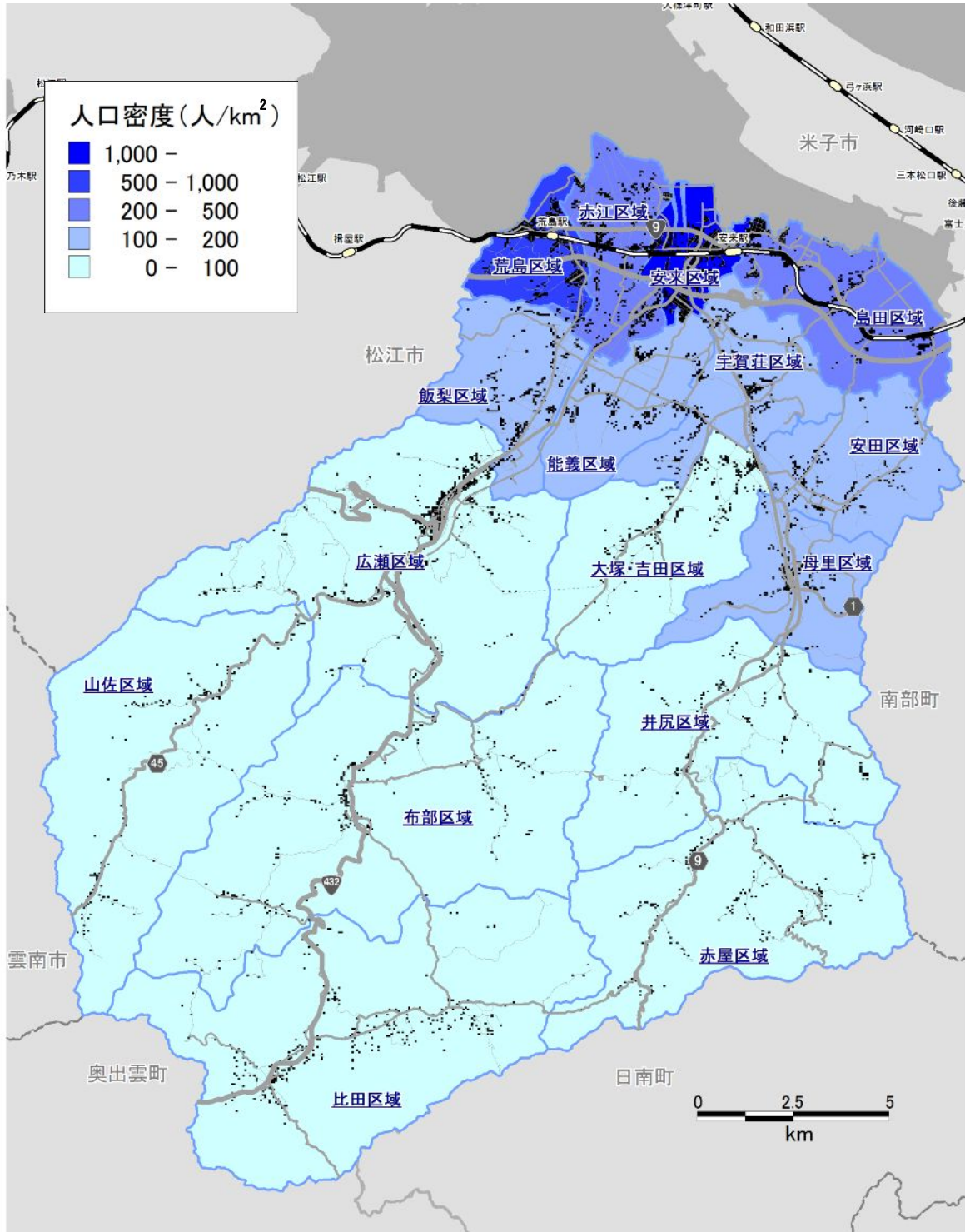


資料：国勢調査・将来推計人口は国立社会保障・人口問題研究所推計値（平成25年3月27日公表）

図4 人口と高齢化率の推移

### (3) 人口密度

人口密度は、安来や荒島の中心部において高くなっています。広瀬や伯太の山間部では低くなっています。

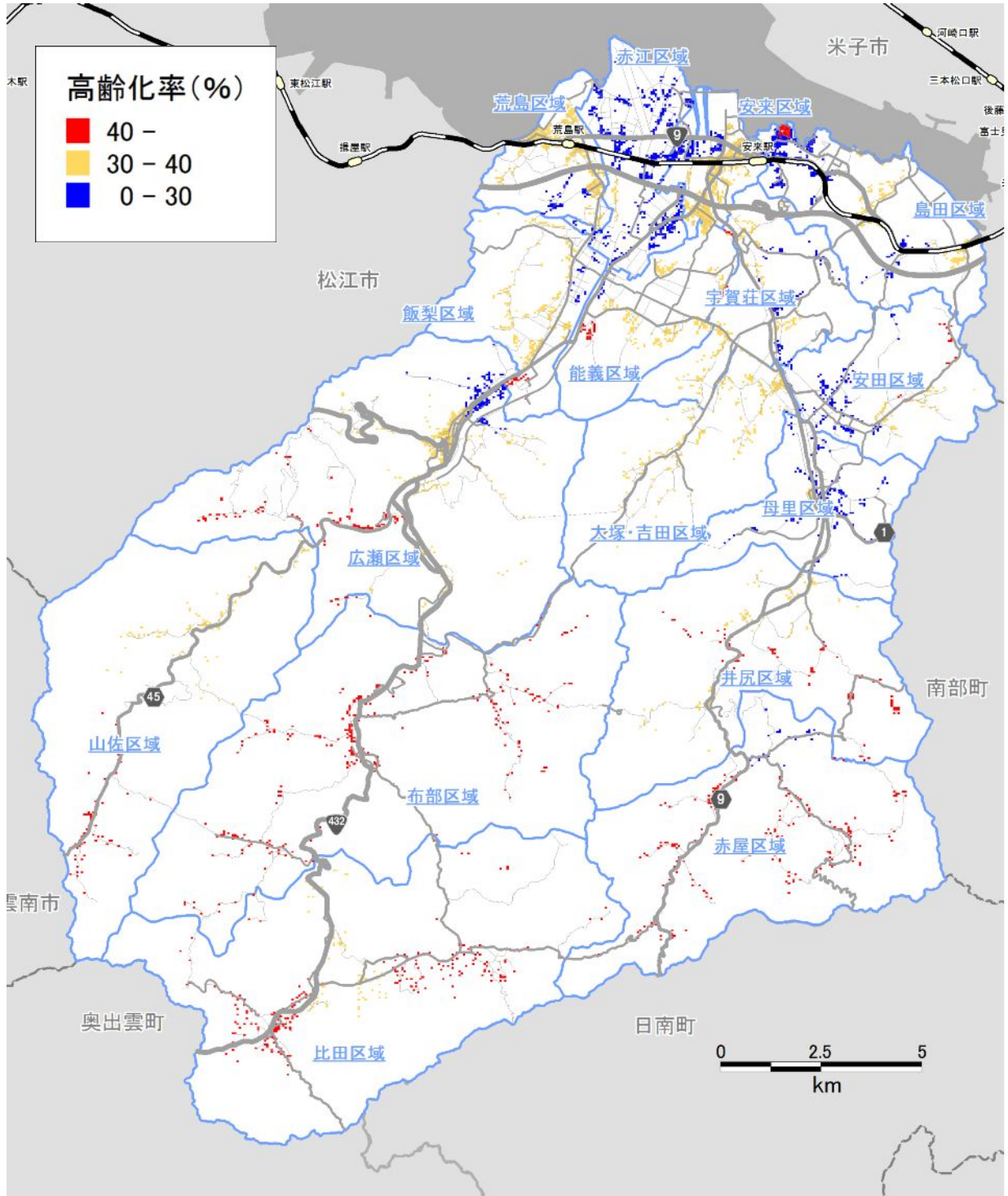


資料：住民基本台帳（平成 25 年 4 月 30 日時点）・電話帳（平成 25 年 4 月）

図 5 人口密度

#### (4) 山間部に点在する高齢者

特に山間部では高齢化率が高く、また点在して居住している状況です。沿岸部においても、団地などでは高齢化が進行しています。



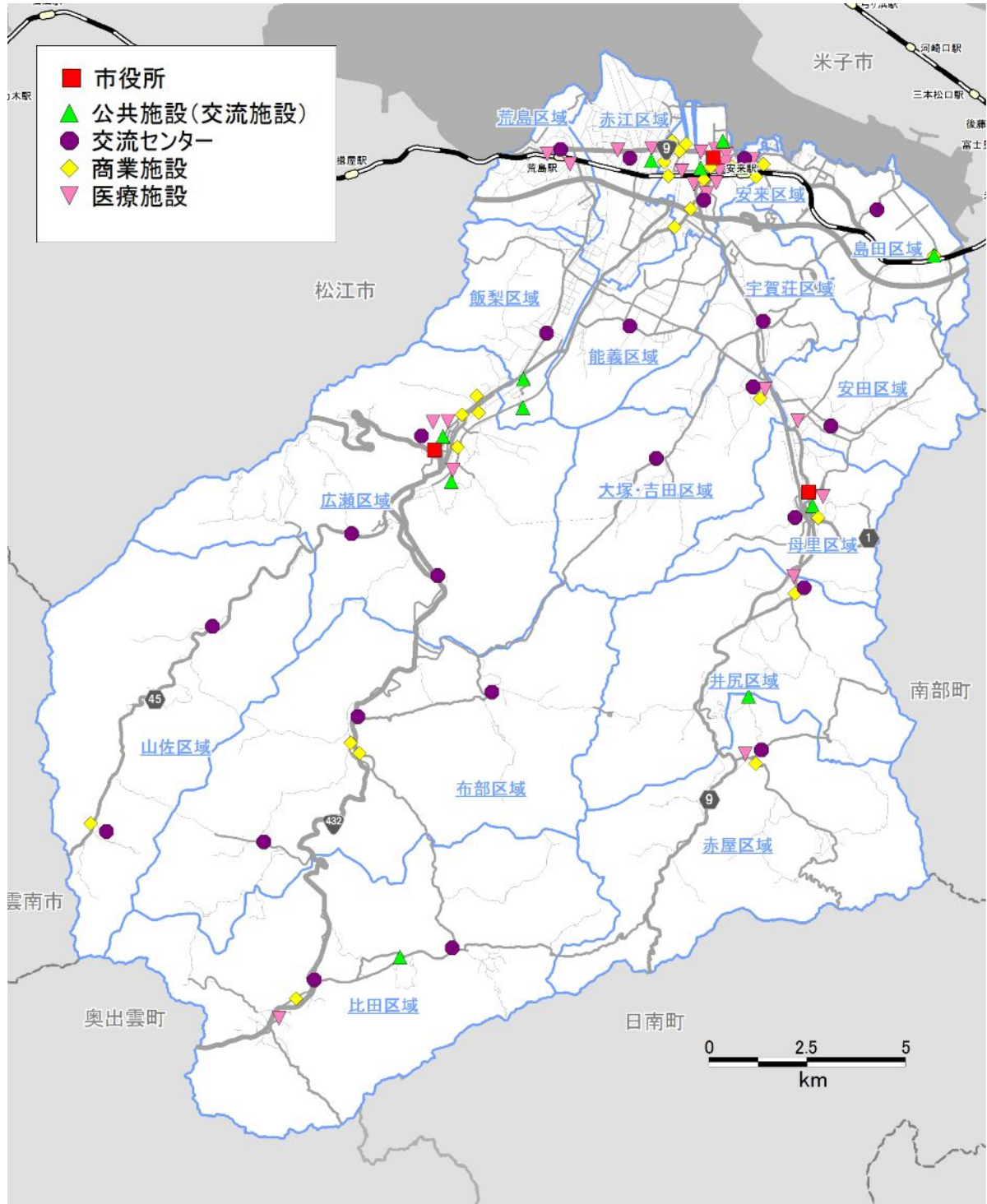
資料：住民基本台帳（平成 25 年 4 月 30 日時点）・電話帳（平成 25 年 4 月）

図 6 高齢化率の分布



### (5) 施設の分布

安来や広瀬の中心部に施設が集積しています。山間部には、商店やコンビニエンスストアなども区域の中心などに分布しています。



※コンビニエンスストアや小規模な商店などは、施設の少ない山間部などでのみ掲載しています

図 7 施設の分布